

「市民活動プラザ外部協議委員会」議事録

平成28年度 第2回（第6回） 佐賀市市民活動プラザ外部協議委員会

開催日時：平成28年10月19日（水）18：50～20：20

開催会場：佐賀商工ビル7階 共用大会議室（A室）

出席者：（外部協議委員）

（一財）佐賀銀行文化財団 事務局長 多良淳二様
とす市民活動ネットワーク 事務局長 木村利予様
西九州大学 健康福祉学部社会福祉学科 准教授 山田力也様
佐賀大学 チャリさがさいせい 元副代表 今村美穂様
（佐賀市）
佐賀市協働推進課 副課長 北御門智子
佐賀市協働推進課 市民活動推進係 主査 井本有香
（指定管理者）
佐賀市市民活動プラザ プラザ長 内川実佐子
佐賀市市民活動プラザ 副プラザ長 高見博
佐賀市市民活動プラザ 副プラザ長 黒田香織
佐賀市市民活動プラザ 会計・経理担当 下田洋平
佐賀市市民活動プラザ 広報担当 内藤雄輔
佐賀市市民活動プラザ 情報収集・発信担当 秋山翔太郎

欠席者：佐賀商工会議所 総務課長 坂井俊彦様

傍聴者：神園肝友会 井崎 潔 様 1名

開催内容：

1. あいさつ

○開会・あいさつ（事務局から）

プラザ長からあいさつの後、新スタッフ自己紹介

2. 多良委員長のあいさつ

○外部協議委員長あいさつ

指定管理期間最終年度にやり遂げなければならないことを見極めすすめ、次期指定管理者への引継ぎを整理してほしい。

3. 佐賀市市民活動プラザロゴマーク紹介

○ロゴマークが決定するまでの流れの説明とロゴマークの紹介

4. 前回の外部協議委員会報告

○平成 28 年度 第 1 回 議事録抜粋 ※添付資料②③

※添付資料③の読み上げ

5. 議事（ここからは多良委員長の議事進行）

1) 平成 28 年度上半期運営管理について ※添付資料④

① 平成 28 年度上半期進捗状況報告（指定管理者）

平成 28 年度は指定管理期間最終年度であるためやり残しがないようにすすめる。

利用者意見交換会から生まれた「いどばたかいぎつながり隊」と共に、プラザを利用しやすくまた来館者を増やすなどを考え、利用者といっしょに運営をすすめている。

I 運営管理方針

1. 市民活動の場の提供

- ・いどばたかぎ※について(※いどばたかいぎとは、毎月開催するプラザ利用者の意見交換会)
- ・団体同士のネットワークの拡大

2. 中間支援組織としての協働の推進

- ・いどばたかいぎメンバーと公民館の協働のはじまりの報告

3. 相談支援、情報収集・発信

- ・聞き取り団体への支援
- ・メルマガ配信の頻度の報告

II 運営管理体制

1. 職員研修による利用者満足度の向上

- ・運営管理体制-スタッフ研修等の報告

III 運営管理計画

1. 利用促進①広報

- ・さがんなかまつりでも広報誌を配布した。
- これにより、印刷やコピー機が利用できることを知った方の来館があった。

2. 利用促進②フロア③ニーズ（アンケート）

- ・唐人南パーキングキャンペーンの利用者が増加した。
- ・アンケートのニーズに答えセミナーを開催した。

3. 相談支援、情報収集・発信

- ・セールスフォースへの入力をすすめながら活用している。
- ・相談支援内容の項目の修正（職員が精査しやすいように項目を追加・変更）した。
- ・団体聞き取りの際に、ボランティア募集情報なども収集しマッチングできるようにフローチャート作成した。
- ・団体聞き取りや相談支援からの情報収集で「助成金セミナー」を開催した。

自主事業

1. 協働の推進

- ・市民活動団体同士が協働しチャリティ活動を行った。
※啓発のため活動の様子をプラザフロアに掲示した。

目標数値に対し結果の報告

- ・印刷等の収入だけが数値目標に達していない。
※原因は半額キャンペーン→利用者、利用数は増えている。

② 佐賀市からのコメント

(運営管理全体)

評価表の全てにおいて「○」「◎」の評価している。

上半期の施設の管理運営については概ね良くできている。

(プラザの運営や相談業務に資する外部セミナーや講習会等への参加および先進事例の視察)

研修等多く受講したくさん学び報告書提出もできているが、現在その事を発揮する機会が少ない、得た情報スキルを活かせていないと感じた。

これまでは市民活動プラザで実施している市民活動団体へ向けた講習会などは外部講師が主体なので、これからはプラザスタッフのスキルを活かし講師として講習会等を企画してはどうか。

(利用促進-①広報・広報誌)

毎月決まった時期に発行はできているが、広報誌の内容の精査ができていない。

(利用促進-②フロア)

唐人南パーキングキャンペーンでフロア利用者が増えたが、唐人南パーキングの利用が目的ではなく、フロアの賑わい創出の手段としてキャンペーンを実施している。今後キャンペーンがなくなったとしてもフロアを利用したくなる仕掛けが必要である。

(相談支援、情報収集・発信-①相談業務・①相談できる場所の周知)

アンケートの結果、相談窓口を知っている方は非常に少なく相談支援窓口の認知度が低い。また、相談したいと思わないという結果であった。

自分が何に困っているかわからない団体も多いと思うので、これから出向いていくヒアリングで団体の悩み事をすいあげてほしい。今後、指定管理者が出向く団体ヒアリングの中、困りごとや課題の支援につながることを期待し今回は「○」と評価した。

(相談支援、情報収集・発信-①相談業務・③相談内容の整理)

以前に比べるとセールスフォースの活用はできているが、もっと過去の膨大なデータが活用できる可能性があるので活用方法を検討してほしい。

(上半期全体を振り返って)

施設管理については十分にできていると評価する。特に良かった点は、意見交換会を「いどばたかいぎ」として利用者の要望を聞く場から、参加者も主体者としてプラザ運営に関わってもらったことである。相談支援窓口の周知がまだできていないが、今年度から始めた団体ヒアリングをすすめ悩みや課題を抽出し、団体支援を行ってほしい。あと半年の期間で、職員でやるべきこと、やりたいことなど考え頑張してほしい。

③ 協議（委員からの指摘やアドバイス）

委員：

いどばたかいぎに出席される方の人数や年齢層、男女比を教えてください。

また、毎月同じメンバーが集まるのか。

指定管理者：

集まるメンバーは毎回ほぼ違う。

同じメンバーは、1～2名である。

人数も毎回違い、少ないとき3～4名、多いときで15名くらいの参加である。

年齢層は幅広く、子育て中の方はいない。

男女比はほぼ半々くらいである。

委員：

提案として、毎月テーマを持って相談支援をすすめてはどうか。

団体自体が問題や課題が何なのか分かっていないと思われるため、テーマを掲げるとこのような相談ができると団体自身が課題に気づきを持たれる。

指定管理者：

さっそく取り入れたい。

委員：

設立したばかりの学生団体をどうやってプラザへ取り込んだのか。

指定管理者：

大学生が主体で2月に開催した合宿形式のイベント「ギャザリング」に相談支援員が参加した。その中で佐賀大学の大学生が環境団体を設立したいという要望があり、グループワークで話し合ったので、以降も支援を継続している。

大学生の団体は設立したばかりで手弁当で活動をしていることに不安を感じているようなので、プラザで開催した「助成金セミナー」への参加を呼びかけたところ、受講された。

この他にも大学生の団体があり、助成金申請について支援を行い、獲得にいたっている。

委員：

今回はたまたま情報を掴めたが、常々情報を入手することは困難だろう。対策はあるのか。

指定管理者：

大学生は横のつながりがあることから、団体同士の紹介でつながることが多い。

団体設立の支援やボランティア情報、助成金獲得の成功事例から、実際に紹介につながっている。

委員：

大学生は横のつながりで周知したり、実際に相談して支援の成功事例など周りに伝えたりしてくれることが周知につながると分かった。

しかし、一般の市民に周知するのは大変だと思う。

指定管理者：

定期的に助成金情報を含めたメルマガ配信をしている。さらに、助成金セミナーを開催した9月の相談件数は、「助成金について」の相談が3分の1を占めている。

委員：

助成金情報に限らず、どの情報も単に情報の提供だけでなく、メルマガ配信時に「成功者の声」「相談して良かった」など、相談者の生の声のコメントをつけてはどうか。

指定管理者：

12月の佐賀市地域づくり研修会で相談支援窓口をPRできるブース出展をするので、相談者の生の声を掲示できるように準備したい。

委員長：

プラザ周知について思うところがある。商工ビル周辺を歩いている市民に対して、7階に市民活動プラザがあることが伝わっていない。ビルに入る前に市民活動プラザの存在が分かるように、せめてビルの1階に「7階市民活動プラザ」などの看板表示等ができないか。

佐賀市：

商工ビル所有者が集まる会議で、これまで様々な提案をして、市民活動プラザの案内・周知を行っているが、看板設置はハードルが高い。

現在、ビル1階の掲示板に市民活動プラザ情報のポスターを貼っている。

これから、1階の通路を利用しパネルに利用者の作品等を展示して7階へ上がるきっかけをつくるように検討する。

委員長：

ハード面での周知が難しいのならば、日ごろからプラザ職員のみめな発信が必要である。

勸興公民館では、現在「まちの居場所づくり・探し」をテーマに取り組んでいる。プラザが勸興校区であり、近場のコミュニティーの場となりうる。プラザからの発信が、そのような人たちに届くように努力してほしい。

佐賀市：

6月の勸興公民館「まちの駅」記念行事時に、チャリティのブースを出店しプラザを周知した。

他にも佐賀市の事業に絡めてプラザの広報を心がけているところである。

市政10周年のプロモーションビデオにプラザの相談支援の宣伝を入れ式典で流した。また、

相談支援については12月の地域づくり研修会にプラザの相談支援窓口としてブース出展する。

委員長：

相談支援のチラシを作成し、地縁組織や様々な団体が集まる場に積極的に参加し周知・宣伝する。

委員：

現在の広報方法に、大学生に効果的がある「ツイッター」を加えてはどうか。

プラザ職員が大学で「市民活動とは」などの活動に興味を持たせる出張講座をしてはどうか。

できれば大学と提携し、大学で講義をしたのちプラザで実習などできないかなど検討してほしい。

指定管理者：

出張講座については大学のカリキュラム上、今年度中の実施は難しいが、そのような連携ができることを期待して、佐賀大学に本年度新設された芸術地域デザイン学部の教授にプラザロゴマーク選定委員をお願いした経緯がある。教授の話によれば、今後、まちづくりに関わろうとする学生が入ってくることが考えられるとのことだったので、教授などに相談してみたい。

2) 平成28年度下半期運営管理について

① 平成28年度下半期運営管理

平成28年度下半期予定 ※添付資料⑤

①市民活動の場の提供

下半期も「いどばたかいぎ」でアイデアをもらい、学生や一般の市民にプラザを周知し利用してもらえるようにすすめる。

②中間支援組織としての協働の推進

市民活動団体と団体、行政・公民館、企業などが協働できるようつなぎをすすめる。進んでいない団体の聞き取りを計画的にすすめる。

③相談支援、情報収集・発信

相談支援は、団体聞き取りの延長で課題や困りごとを見出し、それも含め団体支援をすすめる。情報発信は、団体が求める「助成金情報」に的を絞って有益な情報を提供していく。

市民活動団体に関わるイベント、講演会、講習会、研修会情報もホームページ、フェイスブック、メルマガ、広報誌等で発信する。委員から提案があったツイッターも検討する。

職員研修→①職員（パート含む）全員の設置機器操作向上を徹底する。

②職員による他センター視察を実施する。

③取得した資格・知識などを職員間で共有し勉強する時間を設ける。

（職員が講師となる講習会等も検討）

利用促進→①広報誌の発行部数が伸びるように配布件数を増やす。

(広報) ②プラザ紹介のポスター設置場所を探す。

③広報誌の内容について佐賀市から指摘がないように作成する。

利用促進→①これまでどおり「いどばたかいぎ」で探る。

(ニーズ)

情報公開→①相談支援窓口の認知度を向上させるように、団体聞き取りで探る。

相談支援→①今まで以上に相談内容が活用できるように職員間の情報共有し効率化を考える。

自主事業→①協働が身近で行われていることを紹介できるようにする。

(協働の推進) ※フロア掲示の写真に説明書きなど加えることで理解度を向上させる。

目標数値→①印刷等の収入目標に届いていない。

(印刷等) ※原因はキャンペーン期間にあるが、利用件数が伸びているのでこのまますすめる。

② 協議（委員からの指摘やアドバイス）

委員：

他センターの視察は、どこを検討しているのか。

指定管理者：

具体的に決めていない。

プラザ運営、特に相談支援に対して何か掴んで持って帰れるセンターを選ぶ。

上半期に視察したセンターから「利用者といっしょに運営する」ことを学び、利用者の要望を聞く意見交換会から、一緒に考え運営する「いどばたかいぎ」に変わってきた。

委員：

協働に関しての写真掲示について、市民が写真だけ見ても何の写真なのかわからないので、写真についての説明書きは必要である。説明をつけるだけで、見た方がこんな協働ならば自分たちでもできると思い協働をすすめる団体も出てくると思う。

委員：

利用促進でのコピーキャンペーンは、学生はじめ利用者のためにも続けてほしい。

いどばたかいぎは、学生が参加しやすい日程で開催してはどうか。

指定管理者：

大学生が参加しやすい曜日や時間帯を教えてほしい。

委員：

学部にもよるが佐賀大学の授業の場合は、水曜日午前中だけで終わるため午後空いている。ターゲットにする学部について調べることが必要である。

委員長：

PRや発信、視察についてもターゲットを絞り明確にして決定していくことが重要である。地縁組織や志縁組織、学生などに届く手立てが必要であり、大学への出前講座も検討してはどうか。

5. 委員長総評（ここからは事務局進行）

（上半期の進捗状況についてまとめ）

佐賀市の評価も「○」と「◎」で、全体的に運営管理できている。

（相談支援業務）

毎月、相談のテーマを決め支援に取り組んではどうか。

（協働の推進）

協働事例の紹介の場をつくってはどうか。

掲示する事例写真への説明書きを加える。

（広報）

ツイッターでの発信を検討してはどうか。

学生が市民活動に参加するきっかけづくりのため、大学への出前講座を検討してはどうか。

集客のための広報をする際、ターゲットを明確にする。

地縁組織への広報は、佐賀市と情報共有しながらすすめる。

（職員研修）

目的を持った視察を行い、得た情報は他の職員にフィードバックし必ず共有情報にする。

あと半年間で、丁寧に最終年度の取りまとめができるように努力してほしい。

これまで積み上げてきたノウハウや情報は、次期の指定管理者へ滞りなく引継ぎができることを望む。

6. 連絡事項（事務局）

○今年度は指定管理期間最終年度のため、あと1回開催する。

次回の外部協議員会は、平成29年3月を予定している。

7. 閉会（事務局）

これをもって閉会とする。

以上